

1984 年 8 月 20 日 第三種郵便物認可
KSK 通巻番号 3365 号

2018 年 12 月 5 日発行
毎月 5 回 (5・10・15・20・25

日)

KSK 《頸損だより》

2018 秋冬合併号 (No.147・148) 2018. 12. 2

特集:2018年 全国頸髄損傷者連絡会 大阪大会



大阪頸髄損傷者連絡会

ホームページ: <http://okeison.com/>
お問い合わせ: info@okeison.com

もくじ

- 1…表紙
- 2…もくじ&けいそんう【島本義信】
- 3…特集：2018 年 全国頸髄損傷者連絡会 大阪大会
 - 4…シンポジウム 講演・パネルディスカッション
- 2 3…全国総会・大阪大会を振り返って
- 2 9…レセプション交流会スナップ集
- 3 1…全国総会・大阪大会報告
 - 【テープ起こし：石川真樹・岩本泰嘉／編集：岩本泰嘉】
- 3 6…支部報告（活動報告予定、決算予算）【岩本泰嘉】
- 4 0…障がい者総合支援制度改正
- 4 3…なかま【岩本泰嘉】
- 4 4…頸損連インターネット NEWS 【島本義信】
- 4 6…入会案内
- 4 7…入会申込書
- 4 8…裏表紙、活動日誌、活動予定

けいそんう



この夏に前歯の少し奥の歯が欠けました。

あちこちの歯科に問い合わせても、おおきくってごめんね号（電動車いす）に乗ったままの受診は難しく診察台に移動して欲しいとの返答ばかりでした。そこで以前、歯科の訪問診療があると聞いたことがあったので、問い合わせると翌週には訪問治療をしてもらえました。欠けた歯の治療も1ヶ月で終え、その後2ヶ月に一度ブラッシングと歯石のチェックを受けています。

8020運動というのがあって「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」という意味だそうで、20本以上の歯があれば食生活にほぼ満足することができるそうです。

年末年始に美味しいものを食べるためにも、歯のお手入れに気をつけ始めた今日この頃です！

島本 義信

特集

2018 年 全国頸髄損傷者連絡会 大阪大会

頸髄損傷者の人生を回復してきた道のり

～重度の障害があっても自分の人生をリカバリーできる社会へ～



全国頸損連絡会 2018 年度総会・大阪大会

■ 第 1 日目 5/5(土) 於：ホテルアウィーナ大阪

○ シンポジウム「頸髄損傷者の人生を回復してきた道のり」

～重度の障害があっても自分の人生をリカバリーできる社会へ～

○ レセプション交流会

■ 第 2 日目 5/6(日) 於：ホテルアウィーナ大阪

○ 全国総会

5 月に 2 日間に渡って開催した大阪大会。今回の特集ではシンポジウムと大阪頸損連実行委員の感想及びレセプション交流会の様子と全国総会・大阪大会報告をお伝えします。

1. シンポジウム 講演・パネルディスカッション
2. 全国総会・大阪大会を振り返って
3. レセプション交流会スナップ集
4. 全国総会・大阪大会報告

【テープ起こし：石川真樹・岩本泰嘉／編集：岩本泰嘉】

1. シンポジウム 講演・パネルディスカッション

「頸髄損傷者の人生を回復してきた道のり」

《第1部》 重度の障害があっても自分の人生をリカバリーできる社会へ



柏岡 翔太



鳥屋 利治



赤尾 広明

【司会 赤尾】第一部の方早速始めたいと思います。司会進行は私の方がさせていただきますが、なにぶん不慣れな点があります事を先にお詫びしておきます。よろしくお願いします。柏岡さんの方から自己紹介をお願いします。

【柏岡】柏岡翔太といいます。28歳で出身が大阪の大東市という所でずっと暮らしてまして、そうですね最近ではちょっと珍しいんですけど、兄弟が5人いまして妹4人と僕が一番上で、多分想像できると思うんですけど結構妹が強くて、女性は強いなっていう環境で育ってきました。

怪我する前にやってたスポーツは水泳、空手、剣道と、ラグビーをやってました。受傷レベルはC2で、昼間はマウスピースを口にくわえて呼吸をして、夜は鼻マスク

をつけるという感じで、この2つを使って生活をしています。

【司会】では続きまして鳥屋さんの方から自己紹介をお願いします。

【鳥屋】大阪頸損連絡会の事務局員をしています鳥屋利治といいます。僕自身、頸損連絡会とは1989年に頸損者のツインバスケットボール、いわゆる四肢麻痺者の車椅子バスケットボールの流れから関わりださせてもらいました。もう気づけば頸損連絡会との関わり、活動に30年ほど取り組んできたんですけど、今は私が大阪市の都島区で「自立生活センター・あるる」で、どんなに障害が重くても地域で自立生活していこう、ということを掲げて活動、運動をしていますけども、その「あるる」で法人代表をしています。そして、ちょうど「あ

るる」の活動しだしてから頸損連の関わりが非常に薄くなって、頸損連の兵庫のMさんからは自立生活センターに魂を売った男(笑)とか、あまりいろいろしなくなったな、とか言われますが決してそんなことはありません…(笑)。柏岡君との出会いは2010年頃からなのでもう気づけば8年位という感じですね。今日は、そうした関わりの中から少しお話するようにと言われてますので、ここに出させて頂いてます。

【司会】ありがとうございます。ある映画の冒頭に人生を大きく変える瞬間、ある日ふいに訪れるというプロローグがあるんですけど今日まさにこういう頸損の方の多くはまさにその人生突然障害を負って頸髄損傷になられた方がほとんどやと思うんですが、まず頸髄損傷って障害を負った時にどんな心境なのか多くの方がそんなに変わらないと思うのですが、そのあたりの事から柏岡君に受傷した当時の事を振り返ってどんな心境だったかちょっとお話しお願いします。

【柏岡】まず僕が受傷したのは高校2年生の時なんですけど、1年生の時にラグビー部に入部しまして、1年が経った時に練習中にタックルの入り方が悪かったのか首の骨を折るという大怪我をしまして、そこで呼吸が出来なくなって意識を失いました。

その時にOBの方が練習見ていてその方が人工呼吸をおこなってくれて、なんとか命は救われてそのまま病院へ救急で行って、僕は意識無かったんで全然覚えてないんですけど、気づいたら僕の周りに管が多くてなにがどうなっているのかよく分からない状況で、その時先生から首の骨が折れたとしか聞かされてなかったんで、くっついていたら治るんだろうと軽く思っていました。

それで1週間位が経って絶対おかしいなと思い主治医の先生に俺は治るのかと聞くと、もう一生歩くこと食べる事はできないって言われて、そんな時は気持ちもいっきにおちて絶望感しかなかったです。もう毎日泣いてました。

【司会】毎日泣いて、もう涙がでない位の絶望感は何れ位の期間続いたんですか。

【柏岡】3年位は続いた。

【司会】そういう状態から今こうして皆さんの前で元気にお話もできてる訳だけど、そういう状況から何か変わるきっかけってあったのかな。

【柏岡】そうですね、母がネットやいろいろ調べたりして動いてくれて、あと高校の先生が知り合いの人とかにあたって情報集めてくれたっていうのがあったんですけど、1番のきっかけっていうのは高校の担任の先生の一言、「又勉強してみないか」というのが大きかったのと、後は高校の同級生の卒業は結構大きな出来事でした。

【司会】僕も同じように高校時代に頸髄損傷なって、同じように絶望的な気分の中から泣いて泣いて日々を過ごしてたんだけど、当時の僕はその状況の中で高校に復学するっていう選択肢はほぼ無かったんだけど、その復学する原動力になったというのはこの先生と同級生なのかな。

【柏岡】同級生の卒業というのが僕の中では高校復学するきっかけにはなりましたね。

又勉強そこでしてみないかっていう感じで勉強する気になって、同級生の卒業も近く、皆前に進んでるのに自分は立ち止ま

ったまんまやなとそういう気持ちになって、高校復学しようと思いました。

【司会】じゃあその先生の言葉とか同級生の卒業が凄く大きかった。

【柏岡】はい。

【司会】復学してその後はどのような気持ちで過ごしてた。

【柏岡】その当時は高校卒業したいという新しい目標ができて、3年間引きこもってたんですけど、生きるきっかけになったのは高校卒業する目標ができてからで、それからもう毎日が自分では一生懸命やる事だけでついていく感じでしたね。

【司会】卒業するっていう目標の為にかむしゃらに頑張ってきた結果、卒業にたどり着いた。

【柏岡】はい。

【司会】高校卒業した後、自分はどうかと思う事とかあったんですか。

【柏岡】この状況この状態で、多分働くって難しいと思うんですけど、自分は働きたいっていうのがまずあって、その為にはどう行動していったらいいのかっていうのが難しいですね。

【司会】その経過で大学に進学する訳だけど、進学するっていう気持ちになるにあたって何か決め手になった事とか。

【柏岡】その引きこもっていた期間に近所の方からパソコン使えるなら行政書士になんのかと言われてました。

高校3年生になる前の春休みに、これからどうするって感じで先生に聞かれてパッとそれは思い浮かんで、いろいろ調べると法律系の資格を知って、法律系の大学に行きたいって目標が又できて、その近所の方の一言でまた新たな目標を持つ事ができてっていうのが大きなきっかけです。

【司会】今柏岡君が普通に言いましたけど、なんか言葉の力って凄いいと思います。近所のおばさんが何気なく言った一言「パソコン使えるようになったら行政書士になれるのちゃう」それが柏岡君の大きな新たな目標となり、そして法科大学を目指して大学に進学するっていう道もできた。たった一言、多分日常のたわいない会話の中の一言なんじゃないかなと思うんだけど、それが1人の頸髄損傷の心を動かして、それが今につながってる訳だから言葉の力って凄くリカバリーとしても大きな力を持つてると思うんですが、それがあって大学進学を目指してで無事大学合格して、今度は大学生活が始まります。

ちょっと話は前後するんですが、高校生の時に修学旅行の関係でどうやっていくかって話していく中で、その柏岡君のサポートに向けた会議がスタートしたっていうふうに聞いたんですが、そのあたりから鳥屋さんが関わってくるんですよね。鳥屋さんそのあたりのいきさつってどんなふうに記憶してますか。

【鳥屋】今回、シンポジウムがあるということで、当時の事をいろいろ思い出しました。

柏岡君が大阪市の都島区にある都島工業高校に復学を2年生からされることになり、ちょうど学校としても重度といわれる生徒の復学に向けて取り組んでいくにあたり、どういうふうな支援が必要なのか、とかいうことが都島工業高校の先生から、まず比較的近くにある特別支援学校の方に相談されて、そうすると特別支援学校の先生が同じ都島区に「自立生活センター・あるる」っていう所がありますよ、っていうことで、都島工業高校の先生に紹介された。それで、都島工業高校の先生が私達の「あるる」に連絡くれたのが最初でそれが2010年位でした。

そういうところで柏岡君に出会うことになりました、「あるる」にも来てもらったりとかしながら今後どうしていきますか、というような話しをしながら定期的に会う様になりました。当時柏岡君は20歳ぐらいで、今もこんなぶっきらぼうみたいな感じなんですけど、もっとぶっきらぼうでした(笑)。いろんな事に誘い出したりとか、いろいろしてました。頸損連絡会というのがあるよと誘うんだけど全く来ませんでした(笑)。愛想ないなと思いながら、まあ20歳位ってこんなもんかと思いながらですね、高校生で怪我をして、今までの身体と全く違う自分の体と向き合って、180度違うこれからの人生送っていくその若い彼に、僕らに何が出来るんだろうかっていうふうに考えて、どんな事が出来るか分からないけれども今の事や彼が将来の目標に向かって出来るような事を、一緒に考えて一緒に少しでも歩んでいけたらなあみたいな事を思って関わり続けました。

最初じゃあ支援会議をしましょうということで、当時都島工業高校の先生とそれから特別支援学校の先生とそれから柏岡君

とお母さんと一緒になって会議をしたのが始まりでした。

【司会】 柏岡君、今の鳥屋さんの思いとか聞いてどうですか。

【柏岡】 全くその通りです。頸損連のイベントはその当時全然行かなかったです。この会議ってのがその当時「何をすんねんやろう」とその程度でしか思ってたのですが、今考えたら凄いやなと思いますね。この会議が無かったら、ここまで来れてなかったなと思う位大事な会議ですね。

【司会】 なかなかないですよ。僕も知らなかったんだけど、「あるる」が柏岡君を支援してるっていうのはどういうつながりやったんかなって、その当初から思ってたんやけど都島工業高校からのつながりでそういう縁があったんやね。頸損連の事務所が「あるる」にある関係で結構何年か経ってからかな、頸損連のメンバーとして柏岡君がやってきたりしたのは。

【柏岡】 そうですね

【鳥屋】 何年も経ってから、ようやく頸損連に顔を出したという感じでした。

【司会】 大学進学することになって、大学行ったら障害者ゆえの問題かも知れないが、通学とか大学内での介助っていう部分では、親の付き添い求められたりするんですよね。学校内でのサポートは出来ても身体的なサポートは出来ないとか、通学はもちろん支援出来ないとかいうような壁がぶち当たるんですが、その為にヘルパーとか同行出来る様にと、そういう事を行政と交渉していったりしなきゃいけないんだけど、その

あたり柏岡君の場合はどんな感じで進めていったか。

【柏岡】そうですね。最初は母親から市役所とかに行って、通学とか学内での介助とかはお願いしてたんですけど、そういう会議で僕本人が行った方がもっと動いてくれるんじゃないかと言う事で、大学生になってから僕も市役所に行って、ヘルパーさんお願いしてっていう事をしました。でも高校復学する前からなんで、結構な年数をかけてずっと訴え続けてました。

【司会】ヘルパーの同行が最初に認められたのは1回生の後期からでしたっけ。

【柏岡】そうですね。大学1回生の後期です。

【司会】割合的には。

【柏岡】週2回です。

【司会】で2回生になって。

【柏岡】週3回になって。

【司会】3回生で。

【柏岡】一応週4回認めてもらえるようになって、親無しで大学行くってのが高校の時からの目標にちょっとありまして、それがやっと達成されたというか叶った時が大学の3回生でした。

【司会】柏岡君の話を聞いてて凄いと思うのは、夢とか目標を掲げてそれぞれ達成してるんですよね。最初に言いましたが高校復学すると決めたら3年間で卒業できた、

目標達成できたで大学行ったら、今度は親無しで通学から大学通う事が出来る様にするって言って、3回生の時それを達成できた。目標1つ1つクリアしていったからこそ、また前向きにどんどん進んでいけるのかなと思うんですが、鳥屋さんはそのあたり、どう関わったところあるんですか。

【鳥屋】そうですね関わりの中で先ほども言ったみたいに、一番最初は柏岡君本人とそれからお母さん、都島工業の先生、特別支援学校の先生で、そこにあともう一人大東市の職員さんがおられて、その人も一緒に関わる中で大学の入試に向けてどうテストを受けるのかとか、実際にどこの大学行こかって、柏岡君と私も一緒にいくつかの大学を実際に見学に行ったりしました。そして定期的に柏岡君支援会議を開くようになって。いわゆる重度障害を背負うことになった彼を、何とかこう応援しようと支援者が増えていったのが凄く印象的です。

その後、大東市の障害者支援センターの方であるとか大東市の保健所の職員さんが関わっていたこともあり、大東市の障害福祉課の支給決定担当の方なんかも会議に顔出してくれるようになって、その辺は凄く彼にとっての大きな味方になり、チーム柏岡みたいな感じで、彼が皆を巻き込んでいくというか、引き付ける力と雰囲気、魅力があったんだろうなと思います。そうした中で今彼が言ったように大学へ通うのにヘルパー利用できない状況の中、大東市で初めて、柏岡君に対して通学とそれから学内の介助のサポートを重度訪問介護で対応してくれるようになりました。

重度訪問介護での就学日数を1年また1年と増やしていき、最初は週1日、2日だけに限られてましたけど、それをなんとか3日に増やして下さいよっていう感じで、

大東市の障害福祉の方も会議に参加されていたのでそういった話が直接しやすい、そんな環境の中で会議を継続させてきました。そうしながら柏岡君自身が今度は自分が主催って感じで、自分が司会しながら皆さんの意見を聞きながら皆さんのアドバイスもらいながらの会議を定期的に繰り返していくってことをやっていきました。

高校卒業、そして大学に入った時、今度は大学の職員が支援会議に参加するようになって、ライフステージが変わるごとに支援者が変わっていく、増えていくそんな感じで続けてきました。

【司会】まさに柏岡君が引き寄せる力があるから周りがどんどん支援する方、応援する方が増えていくんじゃないかなと思うんですが、そうやって学校での支援が受けられるようになり、そしてもともと高校の時に近所のおばちゃんと言ったという行政書士を目指してみたらという所が、もう一回こうでてきて国家試験に向けての挑戦が始まるというのかな。

【柏岡】今、勉強してます。

【司会】3回生の時に最初、宅建（宅地建物取引士）の試験を受けたんですね。

【柏岡】宅建が先です。

【司会】3回生の時に宅建を受けて、こんときは残念ながら落ちて、4回生で行政書士の試験でしたっけ。

【柏岡】はい、受けて落ちました。

【司会】こん時も落ちたって簡単に言うんですけど、宅建も行政書士もなかなか厳し

いと言いかね合格率低いですよね。宅建で15%位ですかね合格率、行政書士で10%位かな。

【柏岡】そうですね。

【司会】わりと頸損の方でも何人かいて、今日ここでいらっしゃる方でも持ってる方いらっしゃいますけど、社会保険労務士なんかは7%位で頸損になって何か将来仕事しようと思った時、国家資格取るって大きな選択肢の1つになってくるし、実際国家資格を取って仕事されてる頸損の方も沢山いらっしゃると思うんですが、そういう国家資格挑戦を目指して大学を卒業して社会人になって最初一年目の時に宅建は合格ですよ。

【柏岡】そう、宅建は取りました。

【司会】現在、柏岡さんは行政書士の事務所で働きながら行政書士の国家試験の取得を目指して日々勉強されてるんですか、この行政書士の事務所で働くきっかけみたいなものはどんな感じだったんですか。

【柏岡】行政書士の先生がその会議をおこなってる時に来てくれて、それが今利用してるヘルパー事業所の代表されてる方で、そこで僕が法学部で行政書士を目指してるっていうのを聞いて、その当時は気にかけてた位やったと思うんですけど、大学卒業して宅建を取ってからいろいろ動いていて、又その合格した年に行政書士事務所で働いてみないかと声かけて頂いてで働くっていう事になりました。

【司会】行政書士の資格目指して2年目を迎えた時に、くも膜下出血で入院するって

いう思わぬアクシデントというか、その時どうでしたか。

【柏岡】そうですねいやびっくりしました。最初は尿のカテーテルが折れてて、尿が溜まって自律神経過反射が起こるんですけど、それが強すぎて血圧がめちゃくちゃ上がって脳で出血したのが去年4月にあって、それが起こってから最近何か月か位までマイナスな事ばかり考えていて、でも一応去年は知り合いの方に試験受けようって誘ってもらって一応受けたんですけど、落ちましたね。

【司会】まともに勉強できる状況ではなかったんですね。で今年4度目の挑戦に向けて日々頑張ってる所です。

高校大学そして社会人、当時いろんな方との出会いもありその中でいくつかのリカバリーポイントあったと思うんですよね。高校の担任の先生の言葉であったり、同級生の卒業であったり、近所のおばちゃん言葉であったり、あるいは鳥屋さんを始めとする周りの人たちのサポートであったり、今は行政書士事務所で働いてる縁であったり。

どうですか柏岡君自身が振り返ってみて、もしそういうのが無かったとしたら今の自分て何をしてるやろ、どうしてるやろと思いますか。

【柏岡】どうしてるんですかね。まああんまり考えたくは無いんですけど、まだまだ引きこもっていたのかなと思いますね。

【司会】多分もともと前向きな思いがあったと思うんですけど、その中で背中を押してくれ、あるいは前から引っ張ってくれるようなサポートの力があっていろんな方向

に運んで行ったのかなと思うんですが、鳥屋さんその辺りどう感じてますか。

【鳥屋】そうですね、柏岡君と関わり1年1年、年数を増すごとに柏岡君がどう生きていきたいのか、僕らは当事者として、障害があっても何かをあきらめるっていうのじゃなくて、障害があっても自分らしく生きられるようにあってほしいなって思っていて、僕達世代もやっぱり先輩障害者からいろいろその姿を見て学んでくる中で感じていて、やっぱり今彼の日々の生活、活動にあるように、ある意味障害を武器にするっていうのですかね、障害をマイナスに捉えるんでなくて、プラスに捉えて生きていて、人生を歩んでいって欲しいというふうに思っていました。関わりの年数が長くなっていく中で、一步ずつ、そんな柏岡君になってくるのかなあと思ってたりもします。

支援会議なんかも今でも年2回する訳なんですけど、柏岡君がなんか皆さんに集まってもらえるの悪いし、もうやめた方が良くいんですかねって言うから、そうじゃなくて柏岡君がいついつまでに自立生活を確立する、そこまで皆に何とか集まって欲しい、と言って巻き込んでいくのが大事やでと話しするんですけど、そういういろいろ暑苦しく僕が柏岡君の顔見るたび語るんですけど、そうすると僕の奥さんからは「なんか昔よくいた親戚のおっちゃんみたいやな(笑)」、そんなふうに言われるんですけども、そんな関わりをこう続けていく中で柏岡君に期待するところが年々大きくなってきます。

【司会】ちょうど第一部の時間も残り少なくなってきたんで、最後に今度は鳥屋さんの方から今日柏岡君支援してきたって立場

で登壇して頂いたんですが、その立場で皆さんに何かメッセージみたいなものあればお願いします。

【鳥屋】今日は頸損連全国大会のテーマにもあるように頸髄損傷者の人生回復してきた道のりってあるんですけど、頸損連の活動でセルフヘルプって、とってもこう大事に掲げてやってきてますけども、そこはね当事者だからこそできる事、当事者が当事者に向けて一番同じ立場で今までの体験も踏まえて寄り添える。

あと逆に言うとなかなか障害持ってる人一人では社会に訴えかけるのが難しかったり、一人でこの状況打開する、打破するのって難しかったりするんですけど、そこで同じ状況にある仲間をサポートする。

頸損連絡会で四肢麻痺の皆さんがいるんですけど、呼吸器を使う状態の人がやっぱり一番その中でも重度っていう訳で、柏岡君なんか夜間は呼吸器使うそういう感じですけど、例えば呼吸器使う人の課題は呼吸器使う人でやればいいんだってそんな事ではなくて、やっぱり呼吸器使う課題を抱えてる仲間と一緒に前に進んでいくのは周りの皆であって、頸損連で集まる当事者の皆さん、協力者の皆さんはやっぱり今一番状況的に大変というかしんどいというか、その人と一緒に歩いていく、その人の事を

支えていこうやって頸損連の活動の根底にあると思うので、そういったことで皆さんの周りにも同じようなケースっていっぱいあると思うんです。私がここで話すようなことは何もそんな珍しい事ではなくて、皆さんそれぞれ取組されていると思うので、そういった活動をどんどん展開していった欲しいというふうに思います。

【司会】はいありがとうございます。では最後に柏岡君の方から自分の経験とかも含めて何かメッセージがあればお願いします。

【柏岡】そうですね僕は人に恵まれてるなって今思っています、担任の先生から勉強してみないかとそういう一言を頂いて目標が出来て、そういう流れで今ここまでやってきて、今は隠れ負けず嫌いみたいな感じがあって、なんかここまでやってこれてるのかなと思います。体は動かさないですけど、どこまで自分が出来るのかっていうのは自分自身でも興味のある事ですし、負けずにやっていきたいなと思っています。

【司会】ありがとうございました。せっかくの縁でもありますので、これから柏岡君をもっと皆で応援していけたら良いなと思っていますので、よろしくお願いします。



「頸髄損傷者の人生を回復してきた道のり」

《第2部》 さまざまな頸髄損傷者からの発信



米田 進一



松本 広樹



太田 康裕



大向 優貴



杉本 真一

【司会 杉本】 それでは、第一部に続きまして、重度の障害があっても自分の人生をリカバリーできる社会へ、第二部：「さまざまな頸髄損傷者からの発信」というテーマのもとシンポジウムを進めさせていただきます。

今回、第二部の司会を務めさせていただきます大阪頸髄損傷者連絡会の杉本真一と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、第二部ではパネルディスカッショ

ン形式をとらせて頂きます。年齢や性別などさまざまな頸損者から人生の半ばにおいて事故で重度の障害を負いながらも、その後、自由に活動し、積極的に社会参加につながったポイントを聞き探っていきたいと考えています。そして、よりよい人生のリカバリー実現に向けてどのような道筋があるのかを考えていきたいと思っています。

では、早速ですが今回のスピーカーをご

紹介します。

まず、米田進一さんです。年齢は47歳で受傷歴は約13年、受傷レベルはC1です。受傷原因は2005年5月に交通事故により頸損となり、11月に関西労災病院に転院、その3日後ハローベストを翌年2月に気管切開を離脱され、4月に退院されました。その約2年後に兵庫頸損連絡会に入会され、人工呼吸器使用者勉強会を発足させる等、主に高位頸損者のセルフヘルプ活動に積極的に取り組まれてきました。

本日はどうぞよろしくお願い致します。

続きまして、松本広樹さんです。年齢は49歳で受傷歴は約12年、受傷レベルはC6です。受傷原因は2006年12月に交通事故により頸損となり、泉佐野の救命救急センターで応急手術後、大阪労災病院に転院、ST、PT、OTのリハビリを受け1年3ヶ月後に退院。その後、色々な社会的資源を活用し、大阪頸損連の活動に積極的に関わっておられます。

本日はどうぞよろしくお願い致します。

続きまして、太田康裕さんです。年齢は41歳で受傷歴は約28年、受傷レベルC5です。中学2年生の時にプール飛び込みで頸髄を損傷。八尾徳洲会病院で1年2ヶ月、星ヶ丘医療センターに1年2ヶ月入院された後、中学に復学、卒業されました。その後、大阪頸髄損傷者連絡会の先輩の声掛けで、イベント・役員会などに参加されるようになり、そこで同じ志をもった仲間と出会い、2001年7月、大阪市都島区にて自立生活センター・あるるを設立されます。その後、城東区で自立生活も始められ、2017年10月に結婚され、奥さんと暮らしています。本日はどうぞよろしく

お願い致します。

最後、大向優貴さんです。今回このパネルディスカッションにご登壇頂く予定でしたが、2020年東京パラリンピックの水泳強化指定選手に選考され、本日は合同合宿があるということで残念ながら後ほどのビデオ参加という形になりました。どうぞ、ご了承頂きたいと思います。

【司会】さて、米田さんは10年前に開催された大阪大会でもスピーカーを務められましたが、今の心境はいかがでしょう。

【米田】前回大阪大会に参加したときから10年が経ち、そこから頸損連絡会の活動をやっていくにつれ、私自身も右左分らない状況から、皆様の支えがあったことによっていろんな経験を積んできました。学ぶことが多くありすぎて、そこからいろんな方々と出会う事ができて、自分でやるべき事を徐々にですけどいろいろと実現できたと思っています。そこから自分としては10年前よりは飛躍できていると思います。今回も大阪大会に参加する事ができて、とても嬉しく思います。皆様、よろしくお願い致します。

【司会】一方、松本さんはこうした場で自身の経験を話すということは初めてということで、緊張されていると思うのですが、今の心境はいかがでしょう。

【松本】全国総会大阪大会の場という事で、僕みたいな者が出ていいのかという思いとちゃんと話せるかという思いですごく緊張しています。どうぞよろしくお願いします。

【司会】続いて太田さんは、先日ストーマ

増設の手術を無事に終わられました。退院後に腎盂腎炎になられたということでしたが、体調は大丈夫でしょうか。

【太田】 皆さんこんにちは、太田康裕と申します。3月9日ストーマの手術は無事終わったんですけど、その後、腎盂腎炎になり高熱が出ましたが、今日は体調バッチリで来ましたので、皆さんと楽しい時間を過ごせたら良いと思います。よろしくお願いします。

【司会】 それでは、早速ですが本題に移りたいと思います。ズバリお伺いします。米田さんにとってのリカバリーポイントはいつだったのでしょうか。

【米田】 私のリカバリーポイントは、関西労災病院で入院している時に気管切開から離脱できたことが一番のリカバリーポイントやと思います。この時は本当に自分としても一歩乗り越えられた瞬間でもあり、そこから自分の生活に於いて、気持ち的にすごく楽になったことは言うまでもありません。

【司会】 ただ、気管切開を離脱するには相当な覚悟がいると思いますが、その決断に影響を与えられた方はいらっしゃるのでしょうか。

【米田】 当時、気管切開を離脱する提案を促したのが、主治医である土岐先生で、本当に自分が気管切開から離脱できるのか本当に半信半疑でした。当時入院患者の中で気管切開離脱をされた方がいなかった為に、本心では乗り気ではなかったという事があったんですけど、でも自分が離脱することでこれから良い事例になるのであれば、土

岐先生を信じてみるのも有りだと思ったので離脱の決意をしました。そのお陰で今の自分があると思います。

そして入院中に土岐先生の紹介で、(故)池田英樹さんと出会しまして、彼は同じ人工呼吸器を使用した当時の唯一の理解者であり、私の不安であったり、これから生活するにあたり、いろんなアドバイスをしてくれた事によって本当に大切な友人でした。彼の姿を私は目標としていましたので、本当に出会えて良かったと思います。

【司会】 はい、有難うございます。実は、先ほどお話がありました土岐先生が偶然にも私の主治医でした。私が知りうる限り土岐先生ほど頸髄損傷について精通されている少ない方だと思われます。土岐先生はその後、大阪急性期・総合医療センターに移られ、そこで大阪頸損連のピア・サポート開催にご尽力頂く等、今でも大変お世話になっています。

では、引き続いて松本さんにもズバリお伺いします。松本さんにとってのリカバリーポイントはいつだったのでしょうか。

【松本】 大阪労災病院入院中に同じ病室の方から僕でも出来るスポーツ、ツインバスケットがあるという情報を聞いておりました。退院してから訪問リハビリの先生から車イスバスケットボール漫画「リアル」単行本を頂いて、益々したいという思いが募りました。

そこで大阪頸髄損傷者連絡会を通じて鳥屋さんにチーム見学を紹介してもらったのがきっかけです。そこでは皆さん活気があふれた練習風景を見て運動能力の凄さを見て自分もやりたいと思いました。実際に練習に参加しましたら全然ついていけませんでしたけど、練習中は無の境地といいまし

ようか熱中して声を出してストレスを発散しました。途中、褥瘡になり長期で練習を休むようになりそれからは行かなくなりました。でも大阪頸髄損傷連絡会のイベント事やヘルパーさんに付き添ってもらっての外出は断然増えました。まさにツインバスケット練習参加きっかけがリカバリーポイントでした。

【司会】やはり、鳥屋さんとの出会いは大きかったんでしょうか。

【松本】はい。まず事故後、入院中にケースワーカーさんから頸損だよりを頂きました。入院中は気にもしませんでした。

退院後、自由な時間が増え何をしたらいいのか分からない時に頸損だよりを読んで見て何か楽しそうだなあと思い、電話連絡したらその何日後かに事務局長をされていた鳥屋さんが自宅まで単独で来て頂きました。いろいろ話ししてる内に同い年という事が分かり親近感がわきました。話しの中でツインバスケットの話をしたらチームを紹介していただきました。あと特には当時は褥瘡もあり車イスに3時間位しか座ってられない事を話したらもっと長時間座れるようになると言われ励みになりました。それが2008年秋ぐらいの鳥屋さんとの出会いです。

【司会】はい、有難うございます。実は私のリカバリーポイントもツインバスケットボールの練習に参加したことでした。ツインバスケットボールを簡単に説明しますと、ツインという名の通り高いゴールと低いゴールがコート上にあり、高いゴールにシュートが届かない選手は低いゴールにシュートとカウントするという重度の障害があっても楽しめるスポーツですが、たまたま入

院して病院に出入りしている車椅子業者さんにお誘い頂きまして、退院後に練習に参加するようになりました。

そこで同じ障害を持ちながらも生き生きと生活されているチームメイトと出会いまして、私もこれから大丈夫ではないかと自信を持った記憶が蘇ってきました。

続きまして、太田さんにとってのリカバリーポイントはいつだったのでしょうか。

【太田】沢山ありますが、一番大きかったのは星ヶ丘医療センターに転院した時です。僕が転院した時は14歳で、当時星ヶ丘医療センターには新1病棟（脊損病棟）があり、全国から頸髄損傷の仲間が社会復帰をする為にリハビリを目指して集まっていたんですけど、まずその病院に移った事が僕にとっては大きかったです。

そこで同じ障害を持った仲間に出会えたことで共感しあえることであったり、一人ではないんだという思いが大きかったです。当時入院している皆とOT・PT・看護師と一緒にひらかたパーク（遊園地）に行こうという企画がありました。当時障害受容ができていなかった僕は遊園地に行っても何もできないと思っていましたが、いろんな方のサポートを受ける事によって遊園地でも遊べるんだと実感しました。結局僕はジェットコースターに乗り、そこは階段があったんですが、僕を担いでくれ、僕の席の横にOTの先生が座り乗る事ができました。誰かにサポートをしてもらうことで自己実現できるんだということが僕にとっては大きかったなあというのがあります。

もう一つ大きかったのは入院している時にOTの先生が大阪頸損連絡会の事を教えてくれました。僕は当時東大阪市に住んでいたんですけど、東大阪市に大阪頸損連絡会に入会している先輩がいてたので、一

緒に行かないかと入院してる時に先生が言ってくれました。退院して地域で生活していくという事は、僕にとっては未知の世界でしたし、どうやって生活をしていけばいいのか分からない状況だったので、そうやって地域で実際に生活している先輩の家に行って話を聞いていろんなことを教えてもらう状況を作ってもらえたというのがすごく大きかったなあというふうに思っています。

その後、その先輩に大阪頸損連絡会に参加せえへんかと声かけをしてもらって、実際に参加して同じ志しを思った仲間と出会い、現在あるを立ち上げた事に繋がっていますので、そうやってひとつひとつの情報をもたらえたことは僕の中では大きかったです。

【司会】米田さんと松本さん太田さんのお話しをお伺いすると、リカバリーポイントにおいて今後の人生を左右する人物との出会いがいかに大切なのが浮き彫りになってきました。

また、リカバリーポイントにおいて、心理的にクローズしている状態であれば、引っ掛かりがなく頭の上をリカバリーポイントがスルスルとすり抜けてしまうという危険があるということも理解されました。ただ、そのリカバリーポイントを掴まずにスルーしてしまうという可能性もあったかと思うのですが、そのポイントまでには心理的に前向きな状態にはなっていたんでしょうか。

【米田】受傷して間が無い頃は現実を受け入れられない事が多くて、常に気持ち的には病んでいました。入院から数ヶ月後に自分の思い通りに動かない体を見ている事で、何となくこのままの状態が一生続くと思っ

ていたり、心のどこかではいつかは元の体に戻るのではないかと信じていました。

そこから約半年が経ち、転院することになりました。そこから出会ったのが土岐先生であったんで、その辺りから気管切開離脱も無事に終わりましたし、池田さんにも出会いました。

在宅に戻ってから1年半以上過ぎた辺りから、この体でも何か出来ることは有るのではないかと考えていたところ、土岐先生の紹介で頸損連絡会の存在を知り、紹介から頸損の先輩方の生き生きとした社会参加している姿に影響されまして、自分も一緒に活動したいと思った事から、前向きな気持ちが芽生え入会に至りました。

【司会】では、松本さんよろしく申し上げます。

【松本】僕の場合、障害受容はリカバリーポイントを過ぎてからです。退院後、計5回転倒して一番最近では2018年1月に僕の不注意で、後ろから転倒してその時は頭を打ったのでそっちのほうに心配だったのですが、後から考えると転倒してしまったら何もできない、客観的にこの体で生きていかねばとその時障害受容したと思います。

なおかつ、自分自身が危険に対してもっと慎重にならねばと思いました。

【司会】今回のシンポジウムを企画するにあたり、米田さんと松本さんに事前資料を提出頂くんですが、すごく気になっていた点があります。

それは受傷原因です。先ほど、交通事故とお伝えしましたが、松本さんの場合、相手側が「信号無視」、「無灯火」、「盗難車」、「薬物中毒者」だったということで、私だ

ったら自暴自棄となり、なかなか気持ちの整理が難しいかと思うんですがいかがでしょうか。

【松本】僕は相手側の事を知ったのは記憶があいまいなんです、大阪労災病院に整形外科病棟からリハビリ科病棟に移った事故後3ヶ月経った位でしょうか、母親から聞かされました。

その時は相手の事を恨む気持ちもありましたが、あの時間に通らなければよかったのと思う気持ちのほうが強くてなんてタイミングが悪いんだと思いました。

【司会】つらい体験をお話頂きありがとうございます。

米田さんも交通事故の相手側が駐停車禁止地帯から出てきたトラックであったとお伺いしているのですが。

【米田】私は当時トラックドライバーをしていたんですけど、交通事故の原因は高速道路のETCを通過した右側約20メートル先の駐停車禁止地帯から無灯火のトラックが急に出て来まして、急ブレーキとハンドルを切ったのですが間に合わず、相手側の左後方部分に接触した事で運転席に挟まれ、身動きが取れない状態になり、大声で周りに助けを求めていたんですけど、当時早朝で料金所は無人であり、最悪な事に非常カメラはトラックの後方で目撃者もいなかったんですけど、接触した相手もその現場からおらず約一時間過ぎた頃、ようやく後続車と思うんですけど、異変に気付いた人が通報してくれ、レスキューと救急隊に救助されて病院に搬送されました。

私も松本さんと同じく、相手が悪かったのか？運が悪かったのか？と思っていますが、本音はその時に接触した相手が助けて

くれなかった事が非常に残念でなりません。

【司会】米田さん、有難うございます。

何をもって障害を受容したかは難しいテーマであり、この言葉自体に違和感を感じられる方もいらっしゃると思います。今回のパネルディスカッションのテーマは「リカバリーポイント」ですが、それを向かえるにあたって非常に関係性が深い「障害受容」についてお話し頂きました。

では続きまして、私達の仲間が「リカバリーポイント」を向かえるにあたっての支援者が果たすべき役割についてお伺いしたいと思います。太田さんは日常のお仕事の中で、直接多くの障害を持っている方と関わっていますが、いかがでしょうか。

【太田】僕は自立生活センターというところで当事者として活動しています。僕自身同じ障害を持つ仲間をサポートさせてもらう事で、大事にしていることは、やっぱり寄り添って一緒に歩いていく事がすごく大事なことやなと思います。僕自身もなかなか自分の思っている気持ちを出せなかったもので、同じような方っていうのはたくさんいてと思うんです。そういった方々の声を傾聴して、一緒に歩いていく事はすごく大事なことはないかなというふうに思います。寄り添うことの中で、楽しさであったりとか、もちろん地域で生活していく中のしんどさを伝える役割として、僕自身がいてるのかなというふうに思っています。またその仲間に障害があっても、あなたしかできない事がたくさんあるんだよという事を伝えていきたいです。

【司会】有難うございます。米田さん、お願いします。

【米田】私の場合、家族、友人、知人、医療従事者、介護従事者、頸損連絡会の先輩方や頸損の皆さんに、やるべき事を助言していただいたり、私が人工呼吸器使用者である立場を理解していただいて、周りがサポートをしてくれる事が支援者の役割になっているのではないかと思います。

【司会】有難うございます。松本さん、お願いします。

【松本】当事者の家族、親類、友人、知人、医療従事者、介護従事者等が出来るだけその人の気持ち、考えを尊重して何をしたいのか、どうなりたいのかという事をくみ取って、またそれを導き出す為の助言をする事が、支援者が果たす役割だと僕個人が思う考えです。

【司会】有難うございます。

では、ここで先程お話をさせて頂きました大向さんのビデオメッセージを放映したいと思います。

《《ビデオメッセージ》》 司会：赤尾

〈紹介〉大向優貴さんです。年齢は25歳で受傷歴は約6年、受傷レベルC6です。大学2回生の2012年8月出身高校のプールに飛び込み、頭部を底にぶつけ、頸髄損傷となる。1カ月急性期に入院後、回復期病棟のある病院に5カ月入院する。その後自立生活訓練センターに約1年半入所し、大学へ復学する。復学と同時に1人暮らしを始める（正確には半年ほどは大学の元同級生とルームシェアしていた）。もともと目指していた作業療法士の資格を卒業時に取得し、現在は週2回出勤しながら水泳でパラリンピックを目指している。

【赤尾】自分の中で体が動かない状態になって、どんな気分でしたか。

【大向】着替えもできないし普通に動く事もできないし座る事もしんどいし全部手伝ってもらわないとできないという状況が、なんか自分で何もできないということが不安で、これからどうなるのか考えると怖かったです。

で1ヶ月急性期の病院に入って、そこから転院して回復期病棟に5ヶ月入院して、でもまだその時はぜんぜん自分でできる事はなかったんで、もうちょっとリハビリとかしなあかなあということで、兵庫にある自立生活訓練センターに1年半位入所して、いろいろできるようになって、もともと施設のプログラムの中でプールがあって気にはなっていたんですけど、できないだろうと思っていたし聞く気にもならなかったんですけど、そこのセラピストの人が頸損でも入ってた人がいるよと教えてくれて、友達も一緒に入ってくれると言ってくれたので入ることに。

始めは支えてもらったんですけど、始めから体は浮いていました。ですから入る前が一番怖かったです。

受傷してから2年後の2回生の後期から復学をしました。作業療法の資格を得て2017年3月に卒業しました。でも水泳もしたかったので東京パラリンピックを目指したくて、作業療法は置いといて今はアスリートとして支援してくれる企業に就職して、週2回出勤してあとは練習して過ごしています。

【赤尾】本格的にパラリンピックを目指そうと思ったのはいつですか。

【大向】それは就活の時ですね。作業療法士になれるのかどうか実習をクリアしたところではあったし、自分自身この体でどうことができるのか分かってないし、私を受け入れてくれる情報もなかったので、それなら好きな事をしようかなと思いました。その時にちゃんと競泳でがんばろうと決めました。

【赤尾】その当時、いろんな不安な事があった中で、関わりとかこんな事があったから解消できた事は。

【大向】自立生活訓練センターに入って、同室やった女子二人も復学を控えてて、私は作業療法学科に戻るかすごく迷っていて、作業療法学科は実技や実習が多いのであってそこに戻らなくても、大学での勉強だけで済むところにいった方が良いのではと私も思ったし、周りからもそういう道もあると言われてたので迷ってたんですけど、復学する二人も元の学科の体育学校の先生を専攻と保育士になる為の専門学校に戻ると言ってたので、それなら私も元の学科に戻れるかなと思い、その二人の影響がすごく私の中では一番大きいですね。

またその二人は私より2つ年上で受傷も2年程早かったので、先を歩いてくれているので私はすごくそれが安心して歩いていけるというか力になりました。両親の支えもすごく大きかったですね。現実的にこれから私がどうゆうふうに進んでいったらいいのかということころは、一緒に考えてくれる母でした。

【赤尾】今パラリンピックを目指している大向さんが、多くの人に伝えたいことや投げかけるメッセージなどは。

【大向】怖くて一步踏み出せないけどついつい考えてしまうことがあったら、それはやった方がいいんじゃないかなと私は思っていて、そういったことのちょっと背中を押せる存在になったり、ハードルをちょっと下げれるようなことをできたらなあと思います。

【司会】大向さんと初めてお会いしたのは府立大のO Tの学生さんで健常者でした。そして、大阪頸損連の新年会開催の準備に非常に熱心に関わってくれていたんですが、頸髄を損傷し車椅子使用者になったと聞いた時ショックでした。そしてもし今度お会いした時にどのように接したらよいのか不安でした。

そんな時に駅のホームで偶然お会いしたんですが、大向さんの方から「杉本さん、お久しぶりです。お元気でしたか。」と満面の笑顔で声を掛けてくれました。

すごく安心したのと同時に大切なことを大向さんから教わりました。まさしく今回のシンポジウムのテーマである「重度の障害があっても自分の人生をリカバリーできる社会へ」をまさしく実践されている方だと思います。

今後の大向さんの更なる活躍が楽しみです。

【司会】それでは最後に米田さんと松本さんと太田に今後の目標をお伺いしたいと思います。

【松本】去年の11月に福祉住環境コーディネーター2級試験を受けて、何とか合格しました。今年は1級に挑戦するつもりですが、記述試験もあり厳しいと思いますが、精一杯頑張るつもりであります。それと僕

なりに障害者、高齢者の事を考えられるような住環境に限らず、社会参加出来ればしたいなと思っております。

【司会】松本さんは何か最近、趣味にはまられるとお伺いしたんですが。

【松本】カラオケです。そもそもなぜカラオケかと言いますと、僕のネット調べですが、女性からみて男性の好感度を持たれる趣味の第3位に入ってたのです。ちなみに第2位は旅行、第1位は料理でガクーンでした。

最近はカラオケに行けておりませんが、歌が上手になりたい、また声が小さく発声を高める為に、某ミュージックスクールでボイストレーニングに月3回通っております。自分に投資ですが今では生活リズムのひとつで楽しみでもあります。

【司会】はい、有難うございます。米田さんお願いします。

【米田】人工呼吸器使用者の第一人者として、未だかつて社会参加を諦めている呼吸器使用者のためにサポートしていく活動をこれからも続けたいことと、1人でも多くの頸損当事者が、当たり前にならなく生活が送れる世の中にしていく為、共に活動していけたらと思っております。

【司会】最近、海外旅行に行かれたとお伺いしましたが、大変ではなかったでしょうか。

【米田】頸損連絡会に入会し10年の節目を迎えたことで、10年前から目標にしていた海外旅行にチャレンジしました。人工呼吸器使用者の私が、チャレンジすること

で、同じ人工呼吸器使用者が気軽に海外旅行に行けるきっかけ作りになればいいと思いから実行に至りました。課題は多く大変なこともあったんですけど、一つ目標を達成できたことはとても良かったと思っています。

今年は家族をハワイに連れて行くという目標があるんですけど、それをクリアしたら、次は呼吸器ユーザーが普通に暮らす街と聞いてます、先進国であるカナダ・バンクーバーにチャレンジする事を目標にしています。

【司会】はい、有難うございます。太田さんお願いします。

【太田】今回リカバリーというテーマなんですけども、リカバリーの過程の中でやっぱり自分で選択していくという事はすごく大切な事かなとゆうふうに思っています。僕自身もいろんな人と出会い、その中でいろんな事を選択して、自分自身で決めてきました。

僕は、いろんな経験を通して自分で選択してこれましたが、その選択すらできず、自分の事を決められない多くの仲間がたくさんいてと思うんです。自己選択ができない環境や社会は僕は間違っていると思っています。やっぱり自分の事は自分で決める。それは障害の有無関係なく、そういう社会を目指していく事というのは、すごく大事な事だなあと思っています。障害があることで、我慢したり、あきらめて生活をするのではなく、障害があっても自分がしたい事、僕がジェットコースターに乗ったように自己実現できる社会を今後も作っていききたいというふうに思っています。

その為には僕自身がロードモデルとなって、長く地域で生活していく事が僕自身

の役割で目標だと思っています。

あと僕が地域生活できているのは、先輩方がずっと闘ってくれたからこそ、今があると僕は思っています。先輩方が活動してきた歴史を知る事で、今の僕たちが何をしないといけないのかを知る事ができると思うんです。なのでそういう歴史を僕たちはちゃんと伝えていかないといけないと思います。

これからも頑張って皆さんで、誰もが住みやすい地域社会を作っていきましょう。

【司会】 それでは、質疑応答の時間に移りたいと思います。

一つ質問をいただきましたので、皆さんにお答えいただきたいなと思います。

四肢麻痺者の自立のありようについて、どのようなかたちが望ましいか。

【米田】 自立といっても何が自立っていうのが皆さんそれぞれ違うと思うんですけど、私が13年受傷してなるんですが、13年経ってもまだ一人暮らしという事は目標に掲げてはいるんですけど、実現にはまだ至っておりません。でも自分で物事を考えて実行して、それが実現できてそこから始めて自立というのか分かんないですけど、何もやらない事よりかは一つでも多くの事をやり遂げていって目標を達成していくのが自立なのかなと。

【松本】 やはり自分で決めて、それを人の手を借りても実行していく。

私も今母親と二人暮らしですが、一人暮らしをなかなかできていません。

今言ったように自分自身が決めて、それを人の手を借りても実行する事、それが自立につながるのではないかと思います。

【太田】 僕は自立生活を24歳の時から約16年間送ってきました。昔の自立の考え方は、「自分のことは自分でする。(ADL自立)『仕事に就いて自分の生活費は自分で稼ぐ(職業自立)』」というような考えで、この事ができなければ、『自立した存在。一人前の人間。』ではないと言われていた。そのような考えの中では、重度の障害者で、いくら頑張ってもそのことができない人たちは、自立できない存在になってしまいます。

そうではなく、どんなに重度であっても自立できる存在であるし、一人の人間として誇りをもって生きる事ができる存在なんだという考えで、どんなに障害が重くても必要な配慮や援助があれば自立できる存在であるという考えです。自分がどう生きたいか、自分の生活をどう組み立てるかを自分が主体となって。自己選択・自己決定・自己責任することが自立であり、その事を達成するために介助のサポートを受ける事は権利としてあるというのが、自立という考えであると思う。障害があっても自分の事を周りが決めたりとか、自分を放ったらかしにされたりとかいう状況があると思うので、そういうのではなくて自分が主人公となって歩いていく事がすごく大切な事ではないかなと思います。

【司会】 もう一つ質問させて下さい。

受傷した当時の自分に今の自分なら、どんな言葉をかけたいですか。

【太田】 当時は僕自身もできた事がいきなりできなくなってしまったという辛さがあったので、よく頑張ったねという事とその時の自分があったからこそ今の自分があるとゆうふうに思っていますので、今は障害がある自分が大好きですし、大好きにしてくれたその当時の自分にありがとうと言ひ

たいです。

【松本】事故当時は働いていましたので、明日から収入はどうなるのか不安な気持ちでいっぱいでしたが、現在は今が良ければいいんじゃないかとそういう気持ちでおります。過去の自分に対しては、もっと病院の先生の言う事を聞いておけば良かったんじゃないかとそういう思いです。

【米田】過去の自分に、受傷した頃はほんとに精神的に参り、希望という思いはなかったですが、10年もここまでやってこれたという事と、呼吸器を付けているので外出に対しての制限であったり、機械（呼

吸器）の制約であったり、そういったところで少しずつですけど、乗り越えられたという自分に対しては頑張った事を褒めてやりたいという思いがあります。

今からの自分に対してもさらに一歩乗り越えていく事に期待も自分の事に繋がるんですが、ゆくゆくは自分のさらなる目標に対してのハードルを越えていきたいなと思います。

【司会】それでは残念ながら時間となりましたので、「さまざまな頸髄損傷者からの発信」のパネルディスカッションを終わらせて頂きたいと思います。

有難うございました。



2. 全国総会・大阪大会を振り返って

大阪頸髄損傷者連絡会
大会実行委員長 赤尾広明

振り返ればあっという間に過ぎ去った1年でした。すべてのはじまりは2017年の6月11日に発足した全国総会大阪大会実行委員会。この日に行われたキックオフ会議から全国頸髄損傷者連絡会総会大阪大会（以下：大阪大会）に向けての準備がスタートしたのです。

月1回のペースで会議を積み重ね、お互いに意見を出し合いながら、大阪らしい“おもてなし”満載の大阪大会にしようという意気込みでシンポジウムのテーマ立案からレセプションの余興内容検討、協賛企業や学生ボランティアの声かけ、会場となるホテルとの打ち合わせ、会場までのアクセス調査、配布資料の作成やボランティアのマニュアル作り等々、それぞれがそれぞれの力をフルに発揮できるように役割を分担し、大阪大会経験者も初参加者も緊張しながら本番当日を迎えました。その結果、多くの方に楽しんでいただくことができたように思います。



大阪大会の中でも初日のシンポジウムは力を入れました。実は2014年の兵庫

大会で「頸損になってからの人生のロードマップ作り」という壮大な構想が浮上し、受傷後の過程で多くの人が直面する課題や難題を解決に導くためのネットワークがあれば役立つのではないかと話し合っていたのですが、今回、シンポジウムのテーマとして「人生のリカバリー」を掲げたのはそんな構想が発端にあったのですよね。人生は頸髄損傷になって終わるのではなく、そこから先も長く続くわけですが、いかなる問題に直面してもすぐそばにエキスパートがいればクリアできるかもしれません。障害を負った人生を気持ち少しでも前向きにリカバリーするためには本人の意識改革だけでなく支援者のサポートも不可欠だと僕は思うのです。自分自身も障害を宣告された瞬間は絶望的で激しく落ち込み、劇的な変化を受け入れられませんでした。でも、心境が大きく変容するきっかけがあって現在の自分があります。その過程では家族や友人知人の存在は大きく、逆に支援者がいなければ今でも自分の殻に閉じこもったまま孤立し、惰性で生きているだけだったかもしれません。

皆それぞれ立場や状況も異なる頸損者から受傷当時のエピソードを交えながら障害受容のきっかけをお話いただいたことで、皆それぞれ違って当たり前だけど、皆それぞれの物語一つ一つが心に響きました。これからも頸損者をサポートしていくにあたって、もっと身近に感じられ

る存在として寄り添いながら、地域生活に必要な情報提供および共有ができるネットワークの構築に努めていきたいと改めて実感した2日間でした。

参加してくださった皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。

ありがとうございました。

大阪頸髄損傷者連絡会 統括責任者 島本義信

○大会準備

2017年3月の代表者会議で手を挙げて6月にキックオフ会を開き大会に向けて準備をスタートしました。個人的には10年前の大会の準備中に頸損連に入会し、よくわからないまま実行委員スタッフに引きずり込まれ(!?笑)シンポジウム会場のレイアウトや受付など、できることを手伝っていた記憶があります。



キックオフ会

今大会では兵庫頸損のメンバーの協力を得て、キックオフ会の翌月から実行委員会を月に1度のペースでスタートしましたが、大会直前の3・4月には毎週集まるハードなスケジュールになってしまいました。準備でやるべきことについては10年前の資料があり参考にすることができたのでとても助かりました。ここ数年の全国大会では、1日目がシンポジウム、総会、レセプションで、2日目はゆっくり観光などを楽しむ企画となっていました。今回は初日にシンポジウムとレセプションでたっぷり楽しん

でいただき、翌日に総会と観光を企画しハードですが楽しい時間を過ごしてほしいとの思いを込めて準備をしました。

大会の参加者をどのようにお迎えするかを検討すると同時に、参加費の検討も重要で多くの方の協力を得てリーズナブルな会場や宿泊先に決めることができました。シンポジウムの会場費用を確保するために、助成申請を3件分提出し決定が出るまではドキドキもので、結果は2勝1敗の成績でした。複数の助成が不可だったので2勝のうち1勝は泣く泣く辞退することになりましたが、それでも会場費を賄うことができとても助かりました。助成申請先については大阪市社協の助成金情報から、ひとつずつどんな目的や地域が助成の対象になっているのか、過去の事例などを参考に応募先をさがしました。

ボランティアの募集は医療系・福祉系の大学や専門学校に2月から声掛けを始め、実際に学校へ足を運び、学生たちに直接募集しに行く中で出会えた学生の参加者が多く、行動して知ってもらうことの大切さをあらためて再確認しました。この繋がりをこれからも続けて、頸損者のことを少しでも学生たちに知ってもらい社会に仕事にいかせてもらえるような関係を保とう考えています。

○大会当日

全国大会のテーマは「人生を回復するための頸損連の役割」で、大会初日のシンポジウムには予想を上回る 167 名の参加があり、参加者の中には H P や F B の情報から来場された方もおられ多様な発信があるんだと感じました。



シンポジウム

交流会レセプションにも 120 名の参加がありました。レセプションと言えばコスプレ、コルプレと言えば大阪大会との期待を裏切らないいでたちの実行委員が、歌やダンスでおもてなしの気持ちをあらわし良いひと時を過ごしていただけたのではと感じています。



レセプション

翌日の総会では各支部からの活動報告や予算について承認され、同時に全国頸髄損傷者連絡会の会長、事務局長が世代交代し

新会長には東京の鴨治さん、新事務局長には兵庫の宮野さんの就任も承認されました。午後のオプション企画にも 37 名の参加者があり、17 時にみなさん帰路につかれましたとの報告をもらい、2018 年度の全国大会が終了しました。



全国総会

後日談ですが女性の集いも 13 名の当事者が集り普段話せないことが話せてすごく良かった、今回参加したかったができなかった、との声が多くよせられたことから、これから大阪頸損連の中でも女性障害者に関する課題整理や声を出せる場の設定など、ゆっくりと目標を持って進めていきたい。との報告もありました。

○終わりに

参加者への事前のレスポンスの悪さなど、至らない所は多々あったかと思いますが、大きなトラブルやアクシデントがなかったのは何よりで、実行委員スタッフ一同、安堵感と同時に感謝の気持ちでいっぱいです。大会にかかわってくださった皆様には、この場を借りて心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

次回は九州大会が予定されています。大阪からもガンガンみんなでおしかけませんか…?!

大阪大会を振り返ってということで、一言で感想を述べさせて頂くと、『『あつ』という間に2日間が終わってしまった…』に尽きます。それだけ、大会期間中に大きなトラブルもなく、順調に推移できた表れだと思います。約1年間に渡り準備してきた甲斐がありました。

今回、私はアクセス担当でしたが、第2部のシンポジウムのコーディネーターを務めることになったため、そのシナリオ作成等に傾注してしまい、アクセス担当の作業については、兵庫頸損連の宮野さんを筆頭に、メンバーに頼りきりになってしまいました。本当に申し訳ございませんでした。

さて、まずアクセス担当グループは大会開催にあたり主要ターミナルのアクセス調査を行いました。なお、私は新大阪駅及び難波駅の調査担当となりました。

まず、新大阪駅では新幹線の改札口から地下鉄御堂筋線までのルートを確認しましたが、以前にはなかった新しいルートも増設されており、車椅子利用者にとってあまり評判の良くなかった新大阪駅も少しずつですが改善されていることが実感できました。

また、難波駅においても御堂筋線から千日前線への乗り換えがエレベーター1回ということで、スムーズなアクセスが可能となっていました。



ただ、今回はアクセスメンバーの人数の関係上、どうしても両駅に誘導係を配置することができませんでした。参加者にご迷惑をお掛けすることになり、重ねてお詫び申し上げます。

最後に、今回も学生ボランティアには非常に暑い中、会場までのアクセス誘導をして頂きました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。本当に有難うございました。

僕は小さい頃から目立つとか仕切るとかは苦手なタイプで、実行委員とかになった記憶もないのです、学生の際は、その他大勢に紛れて隙を見つけてサボってたかな。
47 年生きてきて大規模な催しの実行委員

を初めてする事になり、右も左もわからずで、実行委員会に半分くらいは参加させて貰ったのですが、最後まで流れがつかめず迷いっぱなしでした。

受付担当になったものの担当が一人で、

細かいイメージが全然湧かないし、相談しようにも何を誰に相談していいものかも分からず、貰ったスケジュール表とにらめっこしながら、少ない脳みそをフル回転させていたら低血糖と貧血がひどくなりフラフラに。目に見えぬプレッシャーに押し潰されていたのでしょうね、きっと。なので大会直前はしんどくて、実行委員会も休みがちになってしまっていて、でも当日はもう開き直って走り回りました。ボランティアの方々が慣れていて、ちゃんとやってくださったので事なきを得ました。

学生ボランティア 80 人分の電車賃を精算する係でもあって、最近は電子マネーで



電車賃を払うので、皆お釣りを持ってなくて超大量の小銭と千円札に振り回されました。いつもの大阪頸損の学習会とかでは受付した事あるのですが、そんなに複雑ではないので…。

今回はコースが 5 つも 6 つもあったので複雑でややこしかったです。

僕は会計担当なので、2 日目は受付終わってからホテルへの残金支払いのお金をゆうちょ銀行を探しておろしに行ったり、最後のオプション企画迄バタバタでした。

結局最後まで会場の中に入れずに終わってしまったのが残念ですね。

大阪頸髄損傷者連絡会
設営担当 岩本泰嘉

今から 10 年前の 2008 年 5 月に大阪大会があるので Word と Excel を使えるのであれば少し手伝ってもらえないかと打診があり、自宅で暇を持て余していたので、承諾したのを思い出しました。それから少しずつ大阪頸損連の手伝いを始め、振り返れば 8 年前から大阪頸損連の役員会部員メンバーを務めています。

10 年ぶりに全国総会大阪大会を開催するにあたり、おのずと実行委員メンバーになった訳ですが、何から始めたらよいのか見当もつかず大阪頸損連の実行委員メンバ

ーも経験した人はごくわずかで、兵庫頸損連の方々が協力していただいたのはすごく助かりました。約 1 年間にわたり実行委員会の会議を何度もおこない、当初は経験した方がいるので何とかなるさ！と楽観的に考えていました。その後、役割の担当を振り分けて進んでいきましたがどんな大会になるのか見えていませんでしたが、年末あたりから見えてきて事の重大さを知りました。

僕は主にシンポジウム会場・レセプション会場・全国総会会場の設営担当になりま

したが、10年前の資料から図面があったので、それを参考にフリーソフトの CAD をもがき続ける事1ヶ月で何とか素人としては使いこなせる様になりました。その後、ホテルの会場調査に行き、会場内やロビーなどの寸法を測り、シンポジウムの会場は10年前と比べると今回は狭いので車いすと介助者の一枠寸法を最小限にして、講演するスペースや通路幅、一般客席や協賛企業展示スペースなど余裕を持って作成すると、想定していた人数では足りない事が分かりその後何回も修正し、またホテル側にもメールや電話で情報交換を重ねていき、図面作成の期日を参加締め切り1週間後に決めていたので、次の作業に取り掛かる事が出来ると思いきや、その後も次々と参加者が増える次第。増える事は大阪大会をするにあたり喜ばしい事なのですが、大会4日前にようやく図面作成ができすごく苦労しました。



当日シンポジウムの設営には兵庫頸損連の島本卓さんにも手伝っていただき、僕は参加者座席のブロックマーキング（床に養生テープを貼って区切る）をするにあたり、ホテル側がある程度一マスずつマーキング

テープを貼っていて下さっていたのですので助かりました。その後のレセプション会場や2日後の全国総会会場も図面どおりにテーブル・机・イスを配置していただいたので助かりました。



初日のシンポジウムには167名の参加があり、会場内誘導など学生ボランティアに手伝っていただきましたが、僕は指示の仕方に慣れていなかったのも、その点は反省しました。その後のレセプションや全国総会も大きなトラブルがなかったのは何よりで、2日間の大会はあっという間に終わり、余裕がなかったのが悔やまれました。



大会にかかわっていただいた皆様には、この場をお借りして感謝申し上げます。有難うございました。

3. レセプション交流会 スナップ集



総勢 120 名のレセプション 大阪の宴の様子！



MATSUXILE: マツザイル(松本さん)率いる大阪
頸損連メンバーで「Choo Choo Train」披露



ケイセイ伊藤と Breath to Voice's (米田さん、
土田さん)によるブルースハーブショー



謎の覆面ユニット「いちゃりばちょーでーず」に
よる三線演奏と「海の声」絶唱！



なにわの歌謡ショー！ 実行委員全員コスプレで「明日があるさ」を熱唱

なにわの K-1「頸損 No1」コスプレショー



総合司会の宮野さん
ミッキーマウスで登場



三戸呂さん、魔女の
宅急便のキキで見事
No1!!



象の鼻を付けた島本
義信さん、お疲れ気味



金色に輝く大仏様は
松本さん、ご利益ある
かも!



全身コスプレの土田
さん(くまのプーさん)



杉本さんは千と千尋
のカオナシ。眼鏡なく
て大丈夫?



歓迎挨拶の赤尾さん
ひよこちゃん



島本卓さんはセーラー
服姿の遠山の金さん
?それともセーラー侍



米田さんは紅の豚で
空を飛ぶ?



伊藤さんはガチャピン
で顔もメイクで登場



岩本さんはハゲ頭には
猫耳が映えると思
ったが...



不思議の国のアリス
の石川さん、衣装が
小さくてピチピチ。



オフショット!
像とひよこのおねむタイム

4. 2018年 全国総会・大阪大会報告

大阪頸髄損傷者連絡会 島本義信

□大阪大会準備

実行委員会： 2017年6月～2018年4月 計12回実施

実行委員メンバー： 大阪支部8名 兵庫支部8名

学生ボランティア： 声掛け11校 協力6校（延80名）

協賛企業： 17社（展示3社、広告8社、チラシ3社、その他3社）

カンパ： 20件

大会テーマ： 「人生を回復するための頸損連の社会的な役割」

シンポジウム： 「頸髄損傷者の人生を回復してきた道のり」

～重度の障害があっても自分の人生をリカバリーできる社会へ～

日程： 2018年5月5日（土）～6日（日）

会場： 「ホテルアウイーナ大阪」

○参加者集計

● シンポジウム 総計220名

Aコース	33名（当日参加18名 内一般13名）	介助者	19名
Bコース	9名	介助者	10名
Dコース	2名	介助者	3名
Eコース	7名	介助者	5名
Fコース	37名	介助者	34名
当事者計	78名（他一般計13名）	介助者計	71名
ボランティア	53名	企業展示	5名

● レセプション 総計120名

B+E+F	53名	介助者	49名
ボランティア	18名（医療スタッフ2名 映像スタッフ1名）		

● 総会 総計107名

Cコース	1名	介助者	1名
D+E+F	46名	介助者	42名
当事者計	47名	介助者計	43名
ボランティア	17名		

● オプション企画

Xコース	17名（ボラ8名）	Yコース	23名（ボラ9名）	Zコース	13名
------	-----------	------	-----------	------	-----

○協賛企業

- 展示・カタログ配布

川村義肢株式会社／パシフィックサプライ株式会社 エイトハンズ
㈱ユウダ (株) ダンロップホームプロダクツ 株式会社セラピット
からだ元気治療院

- 広告協賛

日本ケアリフトサービス株式会社 関谷クリニック じょうこうクリニック
パナソニックエイジフリー (有) わたしの家すやま ゆうえる株式会社
ぽしぶる F R E E

- 商品提供・無償レンタル

ニシカワ食品株式会社 ゆうえる株式会社 パーソナルサポートひらかた

○シンポジウム質問・意見・アンケート

(質問)

- 自分で選択できない環境とは具体的にどんな環境ですか。ヘルパーや周りの人にどうあって欲しい、どう支援をしてほしいですか。5年ほど前に、頸損になられた方の訪問で失敗して結局諦めてしまった経緯があります。関わり方や自身の技術不足だと感じています。

(意見)

- いろんな人たち、障害のある人たちがお互いに情報交換したり、交流できたりする社会であつたらいいなと思います。

(アンケート)

- リカバリーや受容されたことについて、皆さんが個々の想いをストレートに話して下さりとてもありがたかったです。自分らしく生きる、ということに多分何度もくじけそうになったであろうに、まっすぐ向かっている、すごいな、と思います。なまなましく聞かせていただきました。何か申し訳ない気持ちにもなりました。ありがとうございます。私もがんばります。
- 誰しもリカバリーポイント、きっかけというものが与えられると思うのですが、不自由さがあるからこそ、それを敏感に感じつかみとっていかれているような印象でした。とても有意義な時間でした。ありがとうございました。
- 大向さんといろいろ話してみたいと思いました。
- ボランティアで来て良かったです。大向さんの話がとても良かったです。
- 久しぶりに会に参加させて頂きました。14年前受傷後、Drを通して仲間と出会えたことや、はげまされ、支えられて今があることをまた思い出しました。ありがとうございます。みんなで生きやすい社会に、豊かな人生を歩めるように、先に歩

いている方々が、後に続く人たちが歩きやすいように、それぞれの働きがあるんだと感動しています。感謝。

- 苦しみながらも、自分なりの生きがい、目標を見い出ししっかりと「生きる」ことができている皆さんの生の声をきけてよかったです。ありがとうございました。
- 今日はありがとうございました。
- 勇気、元気を頂きました。ありがとうございました。
- 本人にとって自己実現、選択出来るようにしたいと思います。(父)
- 障害受容という言葉は好きじゃない、という大向さんの言葉に考えさせられました。人生のリカバリーといっても全ていつでも前向きに受け入れられる訳ではない。それでも前に進まれている皆さんの姿がとても素敵でした。
- それぞれの方のリカバリーまでの経験はとても参考になりました。
- 大向さんとは同年代なので共感できたしとても良かったです。
- 障害受容などありえない！大向さんの言っている事がよくわかります。
- 皆さんのお話しとても濃い内容でした、たくさんの方の想いを聞かせて頂きうれしかったです。ありがとうございました。
- あきらめずに前に進む事の大切さを感じました。

○実行委員反省点

【全体】

- 大会へのカンパの御礼、参加費受領済みのレスポンス（アナウンス）の悪さ
- シンポジウムの開会のあいさつ、入場等の打合せ不足
- 事務連絡のタイミングを伝えきれず、閉会のあいさつが抜けた
- プログラムの打合せ不足
- 会計・受付けの管理で当日バタバタしてしまった

【ボランティア】

（全般）

- ボランティアに伝えるのが難しかった、誰が何を伝えるべきなのかを考えていなかった
- 常に繋がりを作っておいて、次の機会があるときに手伝っても応えるようにしたい
- 声掛けのスタートが遅かった（3月末で2-3人だった）
- 足を運ばないとボランティアが集まらない

- 関係性が築けているようで築けていない（何かアピール、イベントを増やすなど）
- 先生との関係性も重要

（アクセス）

- 参加者は昼食のため早めに周辺に集まっていた
- ハイハイタウンは通りにくかった（地上で段差あり）アクセス調査を深くしていなかった
- エレベーターが混み合うのが多かった

（シンポジウム）

- ボランティアはシンポジウムを見ていなかった。イスが少なかったので入れなかった。学生さんに見せることも考える必要があった
- 会場誘導が機能していなかった
- 会場が狭かった、レセプション会場ぐらいが良かった

（宿泊）

- 宿泊担当のボランティアのみで移乗することができなかった。ヘルパーもおこなっていた。ボランティアが少ない（男性の宿泊ボランティアが少ない）
- 利用者さんが部屋に閉じ込められることがあった

【シンポジウム】

- 受付ボランティアがうまく機能していなかった
- シンポジウムからレセプションの時の着替えを何時何処でするのか不明だった

【オプション企画】

- （観光企画）昼食は何時食べる予定だったのか
- 流れを作るためのアナウンス、連携を行えるようにする
- 女子会は話も弾んで良かった。機会を増やしていきたい。新しいメンバーが多かった

この経験を活かして次回の大阪大会で改善したい

－ 2017 年度活動総括－

2018 年度 大阪頸髄損傷者連絡会総会

プ ロ グ ラ ム

■第一部 総会 11:30～

成立確認：事務局長
 開会宣言：司会
 黙 祷：司会
 会長挨拶：会長
 議長選出：司会
 活動報告：事務局長
 決算報告：会計
 監査報告：会計監査
 役員改選：事務局長
 活動計画：新事務局長
 予算計画：新会計
 規約改定：新事務局長
 閉会挨拶：各新役員と部員の所信表明
 議長解任：司会
 閉会宣言：司会

■休憩&準備 13:00～13:30

■第二部 交流会 13:30～16:00

※進行状況により上記の予定時間は、多少前後する事があります。

● 昨年度は、2018 年度の全国大会の準備を 6 月からスタートし毎月実行委員会をおこない進めてきた。実行委員には兵庫支部のメンバーも参加協力してもらい、全国から参加してくださるみなさんが楽しい時を過ごしてもらえるように、全員一丸となって取り組めたことで無事開催へとつながった。大会にあわせてホームページの更新、情報発信を再開した。

● 親睦交流企画では、恒例の行事として定着してきた 7 月の「ピアガーデン交流会」には数年ぶりに参加された方、昨年に引き続き参加した方があった。10 月の京都頸損連絡会との「合同交流会」は、安土桃山時代には政治の中心となり、坂本龍馬ゆかりの地でもある伏見界隈を散策した。雨模様だったが参加者も多く支部間のよい交流ができた、1 月には「新年会」を今回も実行委員会形式で企画準備を行い、多数の大阪府立大作業療法学専攻の学生たちの協力を得ながら進めた。今回初めて実行委員会会場を府立大で準備してもらいこちらから出向いた。当日は全体で 100 名の参加があり、会員を中心とした頸損者の非常によい交流の場となった。

● ピアサポートとしては、これまで継続して取り組んできた、会員が入院中の頸損者に自分の受傷後の体験を伝える星ヶ丘医療センター、大阪急性期・総合医療センターでのサポートを各医療センターで 3 回づつおこなった。その他にも個別に相談対応をし、外出や余暇活動をとにするセルフヘルプ活動も、役員や事務局メンバーを中心に取り組んだことなどが、特筆すべき点である。

－ 2017 年度活動報告－

※なお、主催☆、共催★、参加◆とする

◎親睦交流企画・他

- ☆ 7/30 (日) ピアガーデン交流会
- ★ 10/15 (日) 京都大阪頸損合同交流「伏見界隈の散策」
- ☆ 1/14 (日) 新年会「ワンダフルな 1 年の Start に 胸はドッグドッグ 犬幸な年にしたいワン」

◎勉強会

- ★ 5/20 (土) 府立急性期・総合医療センター「第 3 回ピアサポートの集い」
- ★ 6/24 (土) 星ヶ丘医療センターピアサポート「受傷後の経験談 Part38」
- ★ 9/30 (土) 府立急性期・総合医療センター「第 4 回ピアサポートの集い」
- ★ 10/14 (土) 星ヶ丘医療センターピアサポート「受傷後の経験談 Part39」
- ★ 1/27 (土) 府立急性期・総合医療センター「第 5 回ピアサポートの集い」
- ★ 2/24 (土) 星ヶ丘医療センターピアサポート「受傷後の経験談 Part40」

◎相談対応 14 件

◎セルフヘルプ対応（個人宅や病院訪問、一緒に外出するなど） 延べ 6 件

◎機関紙発行 頸損だより 3 回発行

- ・ 6/11 (日) 頸損だより発送 特集 「身体ケア学習会 Part1 無痛という二次障害」
- ・ 9/10 (日) 頸損だより発送 特集 「身体ケア学習会 Part2 無痛という二次障害」
- ・ 12/18 (日) 頸損だより発送 特集 「事例から探る医療費助成制度改革」
- ・ 3/11 (日) 頸損だより → 「事務局通信」全国大会直前に変更

事務局通信 5 回発行

- ・ 4/9 (日) 事務通発送
- ・ 7/9 (日) 事務通発送
- ・ 11/5 (日) 事務通発送
- ・ 2/11 (日) 事務通発送
- ・ 3/11 (日) 事務通発送

－ 2018年度活動予定－

◎役員会

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| ・ 4 / 9 (日) 4 月期役員会 | ・ 10 / 8 (日) 10 月期役員会 |
| ・ 5 / 14 (日) 5 月期役員会 | ・ 11 / 5 (日) 11 月期役員会 |
| ・ 6 / 11 (日) 6 月期役員会 | ・ 12 / 17 (日) 12 月期役員会 |
| ・ 7 / 9 (日) 7 月期役員会 | ・ 1 / 7 (日) 1 月期役員会 |
| ・ 8 / 13 (日) 8 月期 (台風で中止) | ・ 2 / 11 (日) 2 月期代表者会議に変更 |
| ・ 9 / 10 (日) 9 月期役員会 | ・ 3 / 11 (日) 3 月期役員会 |

◎会議等

- ◆ 4 / 22 (土) 障大連総会@住之江区民センター (舞昆ホール)
- ☆ 4 / 23 (日) 大阪頸損連絡会支部総会
- ◆ 5 / 27, 28 (土日) 全国頸損連絡会総会・四国大会
- ◆ 6 / 3, 4 (土日) D P I 総会@ルビノ京都堀川
- ◆ 6 / 17 (土) 大阪障害フォーラム (ODF) @谷町福祉センター2F
- ◆ 6 / 30 (金) 関定協総会@アネックスパル法田坂
- ◆ 7 / 10 (月) 障大連総決起集会
- ◆ 9 / 3 (日) 全国頸損連絡会代表者会議 i n 名古屋
- ◆ 9 / 26 (火) 障大連「全体会」@大阪府障害者社会参加促進センター2F
- ◆ 12 / 10 (日) 障大連セミナー@たかつガーデン
- ◆ 2 / 11 (日) 全国頸損連絡会代表者会議 i n 大阪 (ある)

◎実行委員会・準備会

- ☆ 大阪頸損連 新年会実行委員会
7 / 28 (府立大学交流会)
- 10 / 24, 11 / 7, 11 / 27, 12 / 8, 12 / 16 (試食会)
- ☆ 大阪頸損連 全国大会実行委員会
6 / 11, 7 / 23, 8 / 20, 9 / 24, 10 / 1, 11 / 19, 1 / 18
2 / 25, 3 / 18, 3 / 25, (4 / 8, 4 / 22, 4 / 29...2018年度)

◎その他

- ☆ 頸損連呼吸器使用メンバー情報交換&近況報告会
第28回 4 / 2 情報交換交流会@西宮総合福祉センター
- ☆ 8 / 22 (火) 障大連事業所連絡会「頸損者の排泄」講師 (島本)
- ☆ 11 / 15 (水) 信愛女学園(看護学科) 講師 (中塔・柏岡)
- ☆ 11 / 20 (月) 障大連事業所連絡会「褥瘡について」講師 (中塔・太田)

●活動方針

- ・セルフヘルプ活動の充実
 - －会活動・運営を担う仲間づくり
 - －経験・体験できる場の提供
 - －新たな頸損者へのアプローチ
 - －寄り添うことのできる関係づくり
 - －病院、医療機関との連携
 - －会員同士の交流の場づくり
- ・情報提供
 - －機関紙「頸損だより」特集組みの充実
 - －会員ニーズ収集の仕組み作り
 - －必要な情報収集の仕組み作り
 - －収集した情報提供の仕組み作り

●活動内容

- | <全体行事> | 内 容 | 主担当 |
|-------------------------------|------------------|------|
| ・ 5 / 5 - 6 (土日) 全国総会大阪大会 | | |
| ・ 7 / 22 (日) 大阪支部総会 | | (島本) |
| ・ 8 / 5 (日) ビアガーデン交流会 | | (杉本) |
| ・ 10 / 14 (日) 大阪・京都合同企画「大阪企画」 | | |
| ・ 1 / 20 (日) 新年会 | (赤尾、杉本、山田、川崎、島本) | |
| ・ 2 / 24 (日) 身体ケア学習会 | | (島本) |
| ・ 3 / 24 (日) 春レク | | (中塔) |

- | <機関誌発行> | | <役員会> | |
|----------------------|--|------------------|--|
| ・ 4 / 15 (日) 事務通発送 | | ・ 4 / 15 (日) 役員会 | |
| ・ 6 / 3 (日) 事務通発送 | | ・ 5 / 13 (日) 役員会 | |
| ・ 7 / 8 (日) 頸損だより発送 | | ・ 6 / 3 (日) 役員会 | |
| | | ・ 7 / 8 (日) 役員会 | |
| ・ 9 / 9 (日) 事務通発送 | | ・ 8 / 19 (日) 役員会 | |
| | | ・ 9 / 9 (日) 役員会 | |
| ・ 11 / 4 (日) 事務通発送 | | ・ 10 / 7 (日) 役員会 | |
| ・ 12 / 2 (日) 頸損だより発送 | | ・ 11 / 4 (日) 役員会 | |
| | | ・ 12 / 2 (日) 役員会 | |
| ・ 2 / 10 (日) 事務通発送 | | ・ 1 / 13 (日) 役員会 | |
| ・ 3 / 10 (日) 頸損だより発送 | | ・ 2 / 10 (日) 役員会 | |
| | | ・ 3 / 10 (日) 役員会 | |

<外部行事>

- ・ 4 / 19 - 21 (木 - 土) バリアフリー2018総合福祉展@インテックス大阪
- ・ 4 / 28 (土) 障大連総会@東住吉区民センター
- ・ 6 / 1・2 (金・土) D P I 総会@神奈川
- ・ 6 / 19 (火) 名古屋城のEVを設置しないについての抗議行動@名古屋
- ・ 6 / 23 (土) 大阪障害フォーラム (ODF) 総会@ウェル大阪
- ・ 7 / 9 (火) 障大連総決起集会
- ・ 8 / 29 - 31 (水 - 金) リハエカンファレンス@厚木
- ・ 12 / 9 (日) 障大連セミナー@たかつガーデン

－ 2018年度 新役員体制－

<行事以外の活動>

- ・ 頸損情報データベース作成委員会
- ・ 頸損呼吸器メンバー情報交換交流会
- ・ 頸損女性メンバー情報交換交流会
- ・ 頸損ピアサポートグループ活動
- ・ 星ヶ丘医療センター交流会（年3回、6・10・2月予定）
- ・ 大阪急性期・総合医療センター ピアサポートの集い（年3回、5・9・1月予定）

<参考：兵庫頸損連行事>

- ・ 4/15（日） 兵庫支部総会 場所：西宮市立若竹生活文化会館
- ・ 6/16・17（土・日） 兵庫・しあわせの村宿泊体験合宿
- ・ 7/7（土） 兵庫・バリアフリー法改正勉強会
- ・ 9/29（土） 兵庫・秋の大バーベキュー大会（明石市大蔵海岸）
- ・ 11/11（日） 兵庫・定例会
- ・ 12/16（日） 兵庫・忘年会



○2018年度役員体制

- ・ 会長 赤尾 広明（留任）
- ・ 事務局長 島本 義信（留任）
- ・ 編集部長 岩本 泰嘉（新任）
- ・ ボランティア部長 中塔 昌宏（留任）
- ・ 会計 石川 真樹（留任）
- ・ 会計監査 太田 康裕（留任）
- ・ 〃 福山 和寿（留任）

－ 2018年度 新役員会部員メンバー（案）－

○新役員会部員メンバー（案）

- ・ 会長 赤尾
- ・ 事務局長 島本（HP・ML、大阪急性期・総合医療センター行事担当）
- ・ 局員 吉田（ML担当）
- ・ 三戸呂（兵庫頸損連担当）
- ・ 宮野（〃）
- ・ 坂上（〃）
- ・ 土田（〃）
- ・ 木戸（HP担当） ※新任
- ・ 岩本（名簿管理担当）
- ・ 鳥屋
- ・ 石川（星ヶ丘行事担当） ※会計と兼任
- ・ 太田 ※会計監査と兼任
- ・ 東谷
- ・ 鈴木
- ・ 杉本
- ・ 横山
- ・ 柏岡
- ・ 天田
- ・ 川崎 ※新任
- ・ 編集部長 岩本（なかまコーナー担当） ※事務局と兼任
- ・ 部員 島本 ※事務局と兼任
- ・ ボラ部長 中塔
- ・ 部員 山田
- ・ 部員 杉本 ※事務局と兼任
- ・ 会計 石川
- ・ 会計監査 福山
- ・ 〃 太田

○各部局の主な仕事

- ・ 会長 大阪頸損会総括
- ・ 事務局 役員会取りまとめ、HP運用、ML運用、名簿管理、タック印刷、事務局通信発行、発送作業、会場手配
- ・ 編集部 機関誌編集
- ・ ボラ部 Vコーディネート、V募集、V取りまとめ、行事V保険
- ・ 会計 入出金管理（会費、カンパ、支払など）
- ・ 会計監査 会計監査



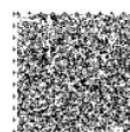
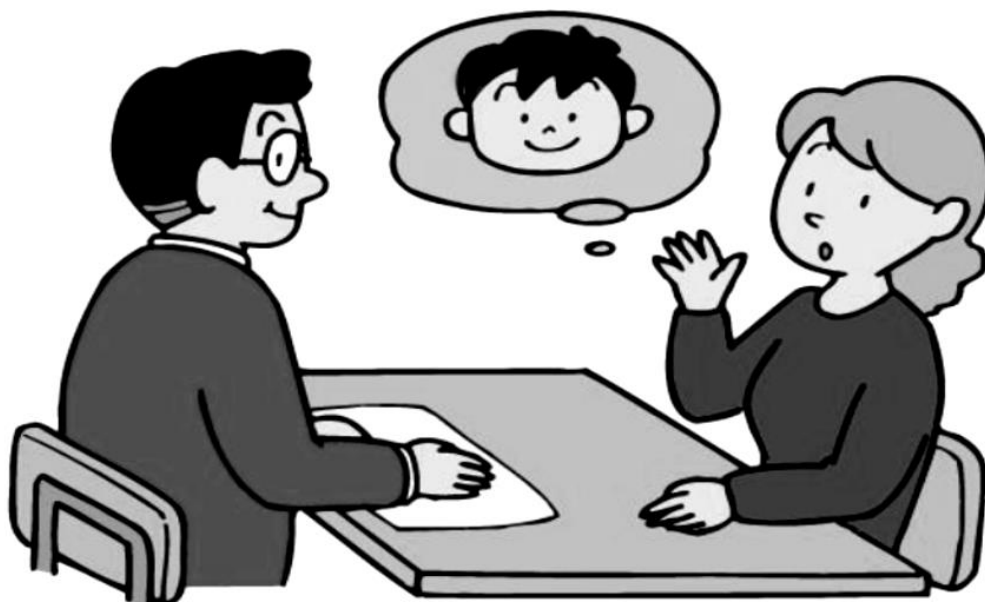
へいせい ねん がつ
平成 30 年 4 月から

しょう が い しゃ そう ごう し えん せい ど
障がい者総合支援制度がかわりました

へいせい ねん がつ しょうがいしゃそうごうしえんほう ※ じどうふくしほう
平成30年4月から障害者総合支援法※および児童福祉法に

もと せい ど いちぶ
基づく制度が一部かわりました。

しょうがいしゃそうごうしえんほう しょうがいしゃ にちじょうせいかつおよ しゃかいせいかつ そうごうてき
※障害者総合支援法…「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に
し えん ほうりつ
支援するための法律」



新しいサービスができました。

1

自立生活援助



- 日常生活の中での悩みや問題について、相談にのってくれるサービスです。
- 障がい者支援施設やグループホーム等から退所して、一人暮らしをした人等が対象です。

2

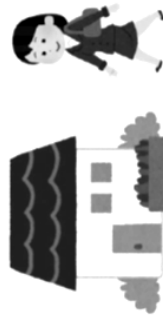
就労定着支援



- 就労での悩みや問題について、相談にのってくれる、事業所等と連絡をとってくれるサービスです。
- 就労移行支援等を利用して、一般就労した人が対象です。

3

居宅訪問型児童発達支援

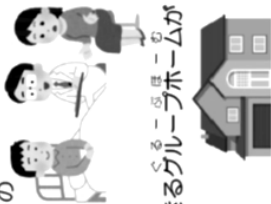


- 支援員が家庭に行き、日常生活に必要なことを訓練してくれたりするサービスです。
- 障がいが高く、外出することが難しい児童が対象です。

しょう ぼう し さーびす ないよう いち ふ

障がい福祉サービスの内容が一部かわりました。

- 重度訪問介護について、訪問先が病院等にも拡大されました。
病院等の人に思いを伝え、わかってもらうための手助け等としての利用ができるようになりました。
- 障がいの重い人や高齢で障がいのある人が生活することができるグループホームが新しくできました。(日中サービス支援型グループホーム)
- 補装具は購入が原則ですが、条件を満たせば、借りることができる場合があります。



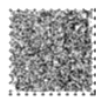
た い しょう ぼう し さーびす ないよう いち ふ

利用者負担軽減制度が始まりました。

- 介護保険のサービスを利用するようになった後の利用者負担について、いったん支払った後に申し込みをすると、払い戻しを受けることができる制度がはじまりました。
- 65歳になるまでに5年以上、ホームヘルプ、デイサービス、ショートステイの障がい福祉サービスの支給決定を受けていた人で、条件を満たす人が対象です。

対象の
障がいの
利用者
ホームヘルプ
(居宅介護、重度訪問介護)
デイサービス
(生活介護)
ショートステイ
(短期入所)

詳しい内容については、お住まいの市町村の窓口にご相談ください。





くわ す し ちょうそん と あ
詳しくはお住まいの市町村へお問い合わせください。

めい しょう 名 称	でんわばんごう 電話番号	めい しょう 名 称	でんわばんごう 電話番号
おおさかしょう 大阪市 障がい支援課	06-6208-7986	みのおしらくしむしよ 箕面市福祉事務所	072-727-9506
さかいししょうがいしゃしえんか 堺市 障害者支援課	072-228-7510	かしわらしらくしむしよ 柏原市福祉事務所	072-972-1501
たかつきししょう 高槻市 障がい福祉課	072-674-7164	はびきのしらくしむしよ 羽曳野市福祉事務所	072-958-1111
ひがしおおさかしょうがいしゃしえんしつ 東大阪市 障害者支援室	06-4309-3184	かどましらくしむしよ 門真市福祉事務所	06-6902-6154
きしわだしらくしむしよ 岸和田市福祉事務所	072-423-9469	せつつしらくしむしよ 摂津市福祉事務所	06-6383-1374
とよなかししょうがいらくしむしよ 豊中市 障害福祉課	06-6858-2224	たかいしらくしむしよ 高石市福祉事務所	072-275-6294
いけだしらくしむしよ 池田市福祉事務所	072-754-6255	ふじいでらしらくしむしよ 藤井寺市福祉事務所	072-939-1106
すいたしらくしむしよ 吹田市福祉事務所	06-6384-1348	せんなんしらくしむしよ 泉南市福祉事務所	072-483-8252
いずみおつしやかいらくしむしよ 泉大津市 社会福祉事務所	0725-33-1131	しじょうなわてしらくしむしよ 四條 畷市福祉事務所	072-877-2121
かいつかしらくしむしよ 貝塚市福祉事務所	072-433-7012	なだのしらくしむしよ 交野市福祉事務所	072-893-6400
もりぐちしらくしむしよ 守口市福祉事務所	06-6992-1630	おおさかさやましらくしむしよ 大阪狭山市福祉事務所	072-366-0011
ひらかたしらくしむしよ 枚方市福祉事務所	072-841-1457	ほんなんしらくしむしよ 阪南市福祉事務所	072-471-5678
いばらしらくしむしよ 茨木市福祉事務所	072-620-1636	しまもとちやうらくしむしよ 島本町福祉事務所	075-962-7460
やおしらくしむしよ 八尾市福祉事務所	072-924-3838	とよのちやうせいらくしむしよ 豊能町 生活福祉部福祉課	072-739-3420
いずみきのしらくしむしよ 泉佐野市福祉事務所	072-463-1212	のせちやうけんこうらくしむしよ 能勢町 健康福祉部	072-731-2150
とんだばやししらくしむしよ 富田林市福祉事務所	0721-25-1000	ただおかちやう 忠岡町 いきがい支援課	0725-22-1122
ねやがわしらくしむしよ 寝屋川市福祉事務所	072-824-1181	くまとりちやうかいほけん・しやう 熊取町 介護保険・障がい福祉課	072-452-6289
かわちながのしらくしむしよ 河内長野市福祉事務所	0721-53-1111	たじりちやうみんせいらくしむしよ 田尻町 民生部福祉課	072-466-8813
まつばらしらくしむしよ 松原市福祉事務所	072-337-3115	みさきちやうらくしむしよ 岬町 福祉課	072-492-2700
だいとうしらくしむしよ 大東市福祉事務所	072-870-9630	たいしちやうけんこうらくしむしよ 太子町 健康福祉部福祉課	0721-98-5519
いずみしらくしむしよ 和泉市福祉事務所	0725-99-8133	かなんちやうこうれいしやう 河南町 高齢 障がい福祉課	0721-93-2500
でんわ 電話での相談が難しい場合は、		ちばやあかさかむらけんこうらくしむしよ 千早赤阪村 健康福祉課	0721-72-0081

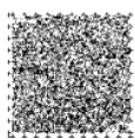
ふあつくす
FAXでこちらまでお送りください。 ➡ 06-6942-7215 (大阪府)

おおさかふ ふくしふ しやう ふくししつ しやう ふくしき かくか せいどすいしんぐるーぷ
大阪府 福祉部 障がい福祉室 障がい福祉企画課 制度推進グループ

でん わ
電 話 06-6941-0351 (内線 2464、4145)

ふあつくす
FAX 06-6942-7215

ほーむ ペーじ
ホームページ <http://www.pref.osaka.jp/keikakusuishin/jiritushien/>



おおさか ふくし ぶしやう ふくししつ はいせい ねん がつはつこう
大阪府福祉部障がい福祉室 平成30年7月発行

頸損連インターネットNEWS

今年は地震や台風、豪雨などの天災が各地で頻発した1年でした、被害に遭われた方には心よりお見舞い申し上げます。まもなく迎える新しい年が、みなさんにとっていい1年になるよう願っています!!

●メーリングリストに投稿されたトピックを紹介します。

ここ約半年にメーリングリストに寄せられた案内、情報などを列記しますと、名古屋城天守閣復元事業で名古屋市はエレベーターを設置しない方針を固めたと5月8日に報道されました。「史実に忠実」に復元するためエレベーターを設置しないという理由ですが、この名古屋市の決定に6月19日におこなう抗議行動への協力のお願がありました。(一方で、熊本地震で被災した熊本城はそれまで階段しかなかった1~6階にエレベーターを新設予定です)

65 才以上の介護保険サービスの利用料の償還制度について(障大連より)今年4月から国の新たな制度として、介護保険の利用を始めた障害者に対して、介護保険の利用料が全額償還される制度(新高額障害福祉サービス等給付費)がスタートしていますが、かなりややこしい制度であり大阪市でその取り扱いを間違っていたこともわかりましたので、それらの情報を併せてお伝えさせていただきます。(11月事務局通信参照)

「電動車いすの安全利用に関するマニュアル」への抗議と改善の要望(DPI(障害者インターナショナル)日本会議より)警察庁がホームページで公開している「電動車いすの安全利用に関するマニュアル」の安全通行基本編について、電動車いすに乗っている人は飲酒をしてはいけないという主旨の文言が掲載されており、この事により実際に電動車いすに乗った人が飲酒が断られるという事例がありました。道路交通法の歩行者の定義は「身体障害者用の車いす、歩行補助車等又は小児用の車を通行させている者」とされており、車いす利用者は歩行者です。歩行者は飲酒や服薬を禁止されておりません。しかし、警察

庁のマニュアルでは車いすユーザーの飲酒を禁止しており道路交通法に矛盾しています。このことに関して抗議と改善の要望を出しました。

国及び地方自治体の障害者雇用水増しに対する声明(DPI(障害者インターナショナル)日本会議より)今年8月に発覚した中央省庁や地方自治体による障害者雇用の水増し問題が事実であれば、こうした課題の検証以前の問題であり、民間部門に対して、垂範して障害者雇用の促進すべき責務を担う公務部門の信頼を大きく損なう極めて重大かつ深刻な問題である。障害者の権利を大きく損ねる行為として厳しく糾さなければならない。ましてや公務部門には課せられていない法定雇率未達成の民間部門に課せられている納付金制度を考慮すると官優遇との排りを免れない行為ともいえる。などの投稿が寄せられました。

6月18日の大阪北部地震での安否確認や情報の投稿もありました。

行事案内は、当会関連では、星ヶ丘医療センター、急性期医療センター・ピアサポート、ピアガーデン交流会、大阪京都頸損合同交流会、兵庫頸髄損傷者連絡会では、バリアフリー法改正学習会、秋のBBQ大会などがありました。

.....

- ・ホームページアドレスは、
大阪 <http://okeison.com/>
兵庫 <http://hkeison.net/>

メーリングリストへの参加申し込みは、本名、登録希望のメールアドレスを明記の上、info@okeison.com まで。

また、メーリングリスト、ホームページ、インターネット、コンピュータ利用に関するお問い合わせも上記メールアドレスか事務局まで。

島本 義信 yosibu.010118@gmail.com